

2022年度 公益事業 恵の実っ子クラブ 事業報告書

1、理念

ひとり一人の意欲を大切に、たくましく、かしこく、やさしく育つ事を願いながら、発達の弱さをもつ子どもも含め、0歳から学童、大人までを共に育ちあう共同の子育てを目指します。

2、今年度の保育目標

子育てを通し、職員と親が共に学び合う

3、入所人数 26名

4、職員体制

所長 1名
指導員 1名 非常勤 1名
事務員 1名

*他事業所との兼務あり

5、保護者支援

学年会、面談、学習会 等

6、苦情、大きな事故等の発生

6-1 事故報告 1件；3年生男児の瑞牆山での転落事故

【発生日時】2022年11月6日10時50分ごろ

【発生場所】瑞牆山山頂（山梨県北杜市）

【事故内容】3年生（5名）、4年生（3名）、5年生（3名）、講師1名、引率保護者2名、職員1名で瑞牆山登山を実施。3年生男児1名が山頂で岩の間に転落。額の傷6針縫合、鼻を骨折、左足打撲。

【被害状況】当該3年生男児は昼食場所を選ぶため、岩と岩を跨ごうとしたところ、足を滑らせ岩と岩の間に落下。怪我の状況から、下山をするのは困難と判断し、救急に連絡し、レスキュー隊により山梨県立中央病院へ搬送された。当日、両親が病院へ迎えに来て、帰宅。翌日、岡崎市民病院にて形成外科を受診。医師が整復し、4週間安静との診断があった。11月11日から恵の実っ子クラブに来所。

【原因】

・安易な計画変更

計画では登頂後、下山の途中で昼食を取る予定だったが、当日は晴天であり、山頂は珍しく風が無く景色も大変よかったため、計画変更して山頂で昼食を取ることにした。

・リスク想定認識不足

下見に行った講師から危険個所の情報共有はされていたが、今回発生した事故に関するリスクは想定できていなかった。

・不十分な事前下見

日程的な都合から、講師のみが下見に行った。

【今後の対策】

- (1) 昼食や長めの休憩は、できるだけ危険のない場所且つ他の登山客の少ない場所とする。天候の変化などによりやむを得ず計画変更する場合は、安全確保を第一とし、変更点は引率者間で速やかに情報共有する。

- (2) 登山を実施する山について、下見をすると共に、これまでの事故状況を調べ、どのようなリスクが発生しやすいか引率者間で速やかに情報共有する。
- (3) 登山の導入時には、子ども達に自然の魅力を伝えると共に、山頂の様子や登山道中で危険な箇所を写真や映像を使って丁寧に話し、危険を察知し、自ら危険を回避できる感覚を育てていく。
- (4) 事前の導入や登山前日に、子ども達に自らの体調管理も含め、山小屋での過ごし方、登頂後は気が緩みやすくなること等を具体的且つ丁寧に話す。
- (5) 講師および職員が下見を行い、個々の子どもの状況に適した山かどうか検討する。

6-2 苦情なし

7、安全管理

- ・火災、水害、竜巻、地震を想定した避難訓練を3ヶ月に1回程度行った。実働に合わせて、他事業所と協力し合って災害対策ができるよう、避難訓練に参加している。
- ・職員の安全対策管理として、学童親の会主催の救命救急講習に参加し、現役消防士によるファーストエイドについての講習と、保護者の方々と海合宿を想定したシミュレーションで救助の方法を学び、活動の安全性を高めるよう努めた。
- ・上級救命講習受講

8、研修

- ・東海地区職員学習会に参加し、他の学童クラブと現状を報告し合い、保護者との情報共有や学習の取り組み方について学びあった。
- ・さくらさくらんぼ保育園主催 「みんなで『学校』を考えよう 菅野一徳さん公演とシンポジウム」 Zoom で参加
- ・全国保育実践交流連絡会主催の秋の講演会（長野県）に参加

9、児童の処遇について

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策として、来所時に検温し日々の健康状態を確認した。
- ・施設内消毒を行い、ウイルスの飛散防止に努めた。
- ・水遊びの時期には、体温、健康状態を把握し事故防止にあたった。

10、活動報告

| | |
|-----|----------------------|
| 4月 | 筍掘り |
| 5月 | 春登山（金華山） |
| 6月 | ホテル観賞、初夏登山（御在所岳） |
| 7月 | プール遊び、白川を愛する会草取り、海合宿 |
| 8月 | 自然合宿、唐松岳登山（低学年） |
| 9月 | 白川を愛する会草取り |
| 10月 | 運動会 |
| 11月 | 秋登山（瑞牆山）リズム講座、沖縄平和学習 |
| 12月 | リース作り、クリスマス会、長野平和学習 |

| | |
|----|------------------|
| 1月 | スキー合宿（1・2年生） |
| 2月 | スキー合宿（3～6年生） |
| 3月 | 6年生を送る会、卒所式、卒所旅行 |

1 1、分析

- ・新型コロナウイルスの感染状況と情勢を鑑みつつ、感染予防対策を行いながら活動を行った。
- ・海合宿は例年同様、福井県敦賀市の手の浦海岸で行う予定であったが、感染増加に伴い、急遽日帰りで行った。
- ・今年度も夏休みには鳳来にある旧門谷小にて自然合宿を行った。
- ・海や山などの自然体験活動だけでなく、子ども達が自分達のやりたいことを仲間と相談し、冒険旅行（主に3年生以上）を行い、各学年で計画を立て実現する経験から子ども達が手応えを感じる活動を保障し、横の絆を深めることも大切にしたい。
- ・三役会、代表者会（ともに親の会）を随時行い、職員と連携を図って保育してきた。
- ・親の会主催による水・山の安全学習や救命学習会が行われ、園児世帯も含めた学習会として保護者が主体的に計画し、実行し運営する機会となった。
- ・今年度も白川を愛する会の草取りに参加させて頂いた。事前に代表の方にお越し頂き、活動の取り組みや白川の歴史についてお話し頂き、草取りに参加する意義を学び、地域社会に貢献する機会となった。今後も継続的に参加していきたい。
- ・各スキー合宿も感染状況に注視しながら実施。合宿中も感染予防対策を入念に行いつつ、子ども達はスキーや雪遊びを満喫した。
- ・11月に沖縄平和の旅（6年生）を実施し、親御さんの強い希望により12月には長野県でも平和学習（松代大本営、満蒙開拓団資料館、無言館を訪問）を実施した。
- ・11月から太鼓の練習を行い、卒所式に向け取り組んだ。
- ・3月24日より4泊5日で卒所旅行を実施。青春18きっぷを使い、青森県の大間崎を目指した。途中、福島県を経由し、東日本大震災の被災地見学も行った。

1 2、次年度に向けて

- ・登山や卒所旅行などで体力のない子が目立つようになってきた。全学年、リズムを定期的実施し、赤塚山公園などで集団遊びを行うなど日常の中で体力がつく活動を行う。
- ・1～4年生を中心に読み聞かせも定期的に行い、物事を論理的に考える力をつける。また、感想を共有することで“自分の意見”を仲間に伝え、“仲間の意見”を知ることで共感したりお互いを知る機会を作る。
- ・低学年会、中学年会からも高学年会へ意見を伝え、それを元に高学年会で話し合ったことを下に伝えるという取り組みを行い、お互いが意見を言い合って生活を作り上げるんだという意識を培っていく。
- ・保護者の方と行う学年会では、子ども達の様子を伝えるだけでなく、その姿をどう捉えるか、というのを学習の根幹とし、定期的（2ヶ月に1度を目安）に共有できる場を設けていく。